

平成28年10月7日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成28年9月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成28年9月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

| 年 月 | 平成 27 年 | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 |
| 営業収益 (単位：百万円) | 593 | 440 | 534 | 470 | 456 | 544 | 510 | 552 | 558 | 464 | 387 | 490 |
| 外国為替取引高 (単位：百万通貨単位) | 164,450 | 87,835 | 93,958 | 80,634 | 80,504 | 92,881 | 83,564 | 89,674 | 95,887 | 71,822 | 55,460 | 64,288 |
| 顧客口座数 (単位：口座) | 253,179 | 254,732 | 256,494 | 258,189 | 259,825 | 261,736 | 263,685 | 265,521 | 267,463 | 268,916 | 270,219 | 271,544 |
| 外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円) | 48,114 | 47,653 | 47,961 | 48,896 | 48,707 | 50,101 | 50,236 | 48,253 | 52,815 | 51,725 | 50,355 | 49,480 |

| 年 月 | 平成 28 年 | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------|------|------|
| | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 |
| 営業収益 (単位：百万円) | 572 | 559 | 529 | 473 | 468 | 738 | 551 | 401 | 546 | | | |
| 外国為替取引高 (単位：百万通貨単位) | 92,445 | 96,278 | 70,156 | 74,405 | 68,455 | 91,113 | 88,556 | 61,925 | 69,423 | | | |
| 顧客口座数 (単位：口座) | 272,521 | 274,164 | 275,538 | 276,891 | 278,360 | 280,816 | 282,791 | 284,866 | 286,494 | | | |
| 外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円) | 60,316 | 60,224 | 59,769 | 59,413 | 59,478 | 57,133 | 57,278 | 58,715 | 58,608 | | | |

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
2. 顧客口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成20年5月より代用有価証券の取扱いサービスを開始し、外国為替証拠金取引に使用できる代用有価証券の預り残高が発生しておりますが、現時点では外国為替取引預り証拠金の残高と比べ重要性が小さいため記載を省略しております。
4. 平成23年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。

< 9月次の概況 >

9月の外国為替市場は、米ドル／円については、1ドル＝103円台前半で取引が始まり、明けて2日には米国長期金利の上昇に伴い104円台前半の高値をつけたものの、米国経済指標に弱さが見られるとドル売りが優勢となり、7日には一時101円台前半の安値をつけました。その後は、日米の金融政策に対する思惑が交錯する中、101円台前半から103円台前半にかけての狭いレンジで推移しました。21日には日銀金融政策決定会合で政策金利を据え置いた上で長短金利操作付き量的・質的金融緩和とオーバーシュート型コミットメントの措置が決定され、一時101円台半ばから102円台後半まで急騰したものの、コミットメントの不確実性等に対する思惑からその日のうちに100円台前半まで値を下げました。その後はOPEC非公式会合における減産合意等からやや値を戻し101円台前半で月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、値動きの乏しい相場推移となり、米ドル／円を含めての全体としての変動率は、前月と比べ若干回復したものの依然低調な水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、外国為替相場の変動率の回復に伴い前月比12%増加の694億通貨単位となりました。一方、営業収益は、外国為替取引高の増加に加え、前月低下した取引高当たり収益性の回復やシステム子会社の売上高増加等により前月比36%増加の546百万円となりました。また、顧客基盤については、顧客口座数は前月比1,628口座増加の286,494口座と堅調な増加となった一方、外国為替取引預り証拠金は、円高方向の相場推移により顧客損益が回復しない中、前月末比106百万円減少の58,608百万円とほぼ横這いの水準となりました。なお、このうち、BtoB取引先である金融法人からの預り証拠金は、前月末比20百万円増加の9,562百万円であります。

以 上